

令和 7 年度第 3 回「こうとう未来ミーティング」実施結果

テ ー マ : 地域福祉(主に、高齢者の福祉や障害者の福祉)

開 催 日 : 令和 7 年 7 月 12 日(土曜日)

会 場 : 総合区民センター サブ・レクホール

参加人数 : 19 名(内、オンライン参加 1 名)

実施形態 : 参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・ 合理的配慮について、企業等に対して情報提供や監査、指導等を行うことなどにより障害を持った方にとって良い環境につながるのではないかな。
- ・ 重度の障害があるこどものデイサービスが断られてしまう。また、エリアによってはデイサービス自体が少ないため、地域に関係なく切れ目のない支援が必要。
- ・ 脳卒中による障害を持った方は、退院後、継続したサポートを自分で探さなければならぬい難しさがある。
- ・ 障害を持ったこどもの親への支援は所得制限が厳しいため、所得制限の撤廃を要望する。
- ・ ピアサポーターが増えることにより、障害を持った方たちが暮らしやすくなる。また、ピアサポーター登録制度を作ると面白いと思う。区がピアサポーター養成講座を開催し、修了した方たちは「区認定ピアサポーター」に登録できる仕組みなどを検討してもらいたい。

【グループ2】

- ・ 知的障害者と身体障害者の両方に、「18歳の壁」がある。18歳までの児童に関しては手厚いサポートがあるが、高校卒業後は親の負担が増え、親が就労を諦めてしまう事がある。
- ・ 知的障害児の放課後デイサービスは、障害が重ければ重いほど受け入れてもらうことが難しく、家族介護を余儀なくされることがある。
- ・ 生活介護で医療的ケアが重いと、障害者通所支援施設になかなか受けしてもらえない。行くべき子が行けていない。

- ・放課後デイサービスも生活介護も、障害の重い子でも受け入れてもらえるよう、ポイント制にしたらどうか。また、予算、人材を確保していただき、障害の重い子たちが行ける施設に変わってほしい。
- ・世田谷区では週5日通えていたサービスが江東区では週3日しか通えない。さらに、看護師不足のため親も送迎バスに同乗しており、就労を諦めた。
- ・障害者手帳を申請するため、保健相談所に休みを取っていく必要があるので、夜間窓口を設けてもらいたい。
- ・自治体で、統合失調症の特徴について周知してほしい。
- ・身体障害者手帳の支給対象として紙おむつだけではなく、おしり拭きも含めてほしい。

【グループ3】

- ・少しでも認知症になると、ネット上で区の支援情報等を探すことが大変なので情報を探しやすくしてほしい。また、パンフレット等、紙媒体での情報提供も無くさないでほしい。
- ・障害者や認知症に対する支援について知らない方が多い。
- ・1人暮らしの男性の高齢者の中には、家に籠っている方も多い。そういった人たちにどうやって外に出てもらうかが課題。他人との会話が苦手な人の場合、1人で黙々と打ち込めるジム等での運動が外出のきっかけになるかも知れない。
- ・団地やマンションのフリースペース、スーパーマーケットの一部などに、フリーマーケット、学び場、健康診断、花壇の管理など人と人がつながりあえる場所をつくってほしい。
- ・マンションでの防災訓練に外国人や要支援者にも参加してもらうとき、コミュニケーションを図るにはどうしたらいいか分からない。要支援者の個人情報の面なども考えていく必要があると思う。

【グループ4】

- ・高齢者・若年層・外国人の地域別人口分布など、地域特性を考慮した福祉サポートが必要。
- ・亀戸駅が障害者や高齢者にとって歩きづらいため、駅のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・精神疾患の方が増えてきているので、安心して行ける場所を提供してほしい。認知症カフェはあるが、見た目が若く周囲に理解してもらいづらい若年性認知症の方は、認知症カフェに行きづらい。区内に、もっと集いやすい場所を増やしてほしい。
- ・町会、自治会、長寿サポートセンターの機能が知られていない。それぞれの活用方法の周知が課題である。無関心な人たちにも届く情報発信が必要。
- ・長寿サポートセンターを知ってもらい、徘徊している高齢者がいた時などに対応してもらえるよう、近所の人やスーパーの店員さんなどに周知するのも有効だと思う。
- ・互助的な福祉を推進するために、若い人や近所付き合いが苦手な人に対するアプローチの仕方を考える必要がある。

- ・ 互助を目的とした地域の人たちの話し合いの場をつくる事は簡単ではないため、区や社会福祉協議会にもサポートをお願いしたい。その話し合いの場所には、独居の人だけではなく、家族がいても孤独を感じている人にも参加してほしい。